

講義名	日本語C（書く）			授業形態	
担当教員	石橋 明子	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	JPN200
主題と概要					
レポート・論文とはなにかといった基本的なことからレポート・論文が書けるようになるようになる。レポート・論文に必要な能力も身につける。					
到達目標					
大学生に必要なレポート・論文が書けるようになる。 レポート・論文の書き方を学ぶことで、社会に通じる基本的能力を身につける。					
提出課題					
ワークシート、課題作文、ルーブリック等、授業中に指示する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。					
評価の基準					
期末試験（30％）、中間試験（10％）、課題の提出（30％）、授業参加度（30％）等による総合評価を行う。					
履修にあたっての注意・助言他					
出欠は毎回とし、全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。 遅刻3回で1回欠席とする。 15分以上の遅刻は、欠席とみなします。 真面目かつ積極的な授業参加を望む。					
教科書					
.大学・大学院 留学生の日本語 4 論文作成編.		アカデミックジャーナリズム研究会	アルク	1800	9784757426344
参考図書					
.大学生と留学生のための論文ワークブック.		浜田 麻里	くろしお出版	1400	9784874241271

授業内でプリントを配布します。			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス 第1課 作文の基本（1） 予習内容：シラバスを読んでおくこと(90分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(150分)			
第2回 第2課 作文の基本（2） 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第3回 第3課 課題の提示 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第4回 第4課 目的の提示 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第5回 第5課 定義と分類 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第6回 第6課 図表の提示 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第7回 第7課 変化の形容 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第8回 第8課 対比と比較 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第9回 第9課 原因の考察 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第10回 第10課 列挙 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第11回 第11課 引用 引用文献の書き方 / レポートのテーマを考える 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第12回 第12課 同意と反論 / レポートのアウトラインを考える 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第13回 第13課 総括 / 最終レポート序論執筆 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第14回 第14課 結論の提示 / 最終レポート執筆 予習内容：資料を読み、問題をしておく(120分) 復習内容：授業の内容を復習し、まとめておく(120分)			
第15回 最終レポート執筆			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐	ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
この科目を受講することで、仲間と協同して、物事を成し遂げることができるようになり、人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになります。日本文化を学ぶことで創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材となり、必要な日本語能力を身につけ、活用することができるようになります。知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材の育成につながります。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
実務経験の有無及び活用			
備考			